

日本産花蜂類の分類群と和名

幾 留 秀 一

鹿児島女子短期大学生物学研究室

〒890 鹿児島市紫原 1-59-1

A List of the Bee Taxa of Japan and Their Japanese Names (Hymenoptera, Apoidea)

Shuichi IKUDOME

*Laboratory of Biology, Kagoshima Women's Junior College
1-59-1, Murasakibaru, Kagoshima, 890 Japan*

Abstract The bee taxa of Japan and their Japanese names were listed, and a part of the latter was given the new names or renames. A new name, *Mitsukuriapis*, is proposed to *Mitsukuriella*, a subgenus of *Andrena* (Andrenidae), in this paper. A Japanese-English list on the Japanese names was appended.

Key words: bee taxa of Japan; homonym; Japanese name.

は じ め に

和名には学名におけるような規約はないが、だからと言ってどうでもよいというものでもない。和名が日本人にとって親しみやすいことは言うまでもないし、専門家以外の者にとってはなおのことであろう。

鳥類では、世界の種に和名がついている。ただ、その数がおよそ8,800種（ペリンズら，1986）という点では昆虫のそれ（世界で100万種以上，日本に約29,000種：平嶋，1989b）とは比較にならないかも知れないが，世界の全種に和名の便宜を図っている意義は決して小さくはない。では昆虫の全種に，ことに世界のそれに和名をつける意義があるかという点，そうは思えない。しかし，日本産の昆虫となると話は別である。チョウ類（福田ら，1982，1983，1984a，1984b）を始め，トンボ類（浜田・井上，1985）やカミキリムシ類（大林ら，1992）では，種のみならず亜属あるいは属以上の分類群にも和名がよく整備されている。このことは，厚い関心層の所産と言ってしまうまでもあるが，和名でものと言えるという点では，結果的により一層親しみ易くしている効果もあると思われる。関心層が厚ければ情報量も当然豊富になる。興味や関心の対象が形質や形態にあまり期待できない昆虫では，関心層を広げる一助として，また，それによってもたらされる情報量の増大のために，和名のもつ啓蒙的效果に期待する意味からも和名を整備しておくことは有意義なことと思われる。

最近刊行された日本産昆虫総目録(平嶋, 1989b)は, 日本の昆虫相を一覧できるばかりか, 種々の機会, とりわけ昆虫という生き物を認識するうえにおいて, その名称を学名と和名の両方から知るのに大変重宝なものである。また, 日本蟻類研究会は, 独自に, 現在までに判明している日本産アリ類について, 全種類を分類学的に整理するための一連の出版物を刊行している。それらは, 日本産アリ類和名一覧(森下ら, 1988)に始まり, 日本産アリ類の検索と解説(1)・(2)・(3)(森下ら, 1989, 1991, 1992)へと続く。これらの出版物は, 分類学はもとより各方面の研究の発展に大いに刺激的な役割を果たすであろうし, また, 専門家から愛好家に至るまで大変便利なものとなるに違いない。

一方, 生態学的分野におけるハナバチ類を題材とした研究は, 近年急速に高まってきており, その成果を和文の単行本にして出版される機会も増えてきた。それらの研究内容は, 習性に関するもの(岩田, 1971; ハイน์リッチ, 1991など), 社会性に関するもの(坂上, 1970, 1975, 1992; 坂上・前田, 1986; ホイラー, 1986; 松浦, 1988; スイーレイ, 1989; 井上・山根, 1993; 松本・東, 1993など), 分布に関するもの(木元, 1986)および送粉(pollination)に関するもの(川那部, 1992, 1993など)とに大別される。これらの出版物のいずれもが労作で学問的価値の高いものであることは言うまでもないが, 登場する和名に若干統一性を欠く点が惜しまれる。ごく最近出版されたもののなかには, 同一出版物中に同物異名が発見される場合もあり, 安易に用いられている感は否めない。

このような今日の動向のなかで, とりわけアリ以外の有剣ハチ類における現状を振り返ってみると, 先ずは, 環境アセスメントをはじめとするいろいろな機会にハチの正確な名前を知りたい, という強い要望があるにもかかわらず, それに応えるような同定のための手引書(図鑑等)に恵まれていないことに気づく。そこで最近, 筆者は山根正気氏と共に, 有剣ハチ類同定入門(1)・(2)・(3)を「昆虫と自然」に連載(山根・幾留, 1992a・1992b; 幾留・山根, 1993)したが, この稿を進める過程でもハナバチ分類群の和名を整える必要性を痛感した(そのため, そこでは呼称の安定した和名だけを掲載した)。その必要性とは,

1. 上述のような意味(利便性や啓蒙性)において, あってしかなるべきもの。
2. 環境アセスメントをはじめ, 種々のハナバチ相調査の機会がふえてきている昨今, 報告書などに用いるリストの作成上の便宜を図る。
3. 近い将来, 検索図鑑のような出版物の企画が予定されていること。
4. これまでに出版されたハナバチに関する種々の印刷物において, 各分類群の和名における呼称が統一性に欠けること。
5. 一部未分類群があるものの, それ以外は分類学的な位置がほぼ安定してきていること。

などである。

といっても, 今回の最大の目的は, 使用頻度の高い「属」の和名を整えることにある。科名と種名あるいは亜種名については, (後2者においては一部に未命名のものがあるものの)日本産昆虫総目録で事足りる。仮に多少の好み程度の異論があつたにしても踏襲したいし, またそうすべきであると思う。柱となる科名や属名が決まれば, その周辺の分類群についても自ずと決まる場合が多い。従って, これを機に亜科, 族および亜属にも和名を与えておきたい。また, その結果として一部については種名にも言及したい。このような整理をしておけば, 今後の作業がし易くなるばかりでなく, 何かと便利になる

はずである。

そこで、今回の作業を進めるに当たっては、花蜂類の研究者間には蟻類に於けるような組織だった研究会が存在しないので、少なくとも一個人の偏見を避けるために、次の方々のご意見を賜りながら最終的に合意したものを提唱する次第である。

平嶋義宏博士（九州大学名誉教授，現在宮崎公立大学学長）

坂上昭一博士（北海道大学名誉教授）

多田内修博士（九州大学農学部昆虫学教室助教授）

本文に先立ち、先ずはこの企画にご賛同下さり、かつ有益な議論を度々交信し、なおも本稿を読んで有益なご助言を賜った上記3氏に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げる。また、原稿を読んで有益なコメントを下さった山根正気博士（鹿児島大学理学部生物学教室助教授）、並びに属の記載文献に関してご教示下さりかつ一部の古い文献をコピーして下さった Dr. Charles D. Michener (Watkins Professor, Entomology, Systematics & Ecology, Emeritus of the University of Kansas, U. S. A.) にも感謝の意を表したい。

なお、和名の使用については特別の規程や制約はないが、このように和名を申し合わせておくことは、和名使用に際しての混乱を一掃するだけでなく、研究上の情報整理にも役立つものと思われるので、好むと好まざるとにかかわらず、ここに提唱された和名が広く一般に使用されることを切望する次第である。また、今回の整理は日本産昆虫総目録をベースにしているので、合わせて用いられたい。

整 理 の 方 針

今回、整理を進めるに当たっては、特に以下のような方針を立てた。

1. 和名のない分類群に新称を与える。
2. 既に和名のついている分類群において、
 - a. 複数の名称（同物異名）がある場合、原則としてその中から一つを選ぶ。
 - b. 極めて紛らわしいと思われる場合やある理由から不適切と思われる場合、改称を与える。ただし、改称することによってかえって混乱を招く恐れがあると思われる場合は、当分そのままにしておく。
3. 和名の造語法について、
 - a. 学名に用いられている外来語の発音を以て和名とすることは避ける。ただし、人名や地名のような固有名詞についてはその限りとししない。
 - b. その分類群における種の（できれば共通する）形態的あるいは生態的特徴に由来する語が望ましい。
 - c. 必ずしも上位分類群の名称の一部または全部を取り入れた複合語にする必要はない。
 - d. 語呂がよくて発音し易く、かつ字数が少なく短かい名称が望ましい。〈ただし、分類群の上下関係に基づく複合語などの場合のように少々長くなることは止むを得ない。このような複合語は、分類体系的要素に重点が置かれているので、少々長くても整理上や認識上において便利な一面もある。他の昆虫、たとえば和名のよく整ったカミキリムシ類（大林ら、1992）では、ツヤケシヒゲナガコ

バネカミキリ属のように最長15字で、10字を越える名称が実に多い。だからと言って長くなることに賛同しこれを推進するものではないが、長くならざるを得ない場合でも目安として15字を越えないようにしたい。〉

凡 例

1. 配列は、日本産昆虫総目録に準じ、特に属の学名はアルファベット順とした。
2. 既存の和名については、知り得る限りにおいて、現在の分類体系のもとで初見される提唱者名と発表年を、和名の後に（ ）で括って示す。なお、特定の分類群を指さないで広義に使用してある名称は除く。(ただし、ここに示した提唱者以外および発表年以前のものや他にも同物異名があるかも知れない。そのような場合はご教示を請う次第である。)
3. 今回与えた和名については、新称または改称に続いてその提唱者のみを記す。
4. これまでに複数の和名があった分類群については、=のあとに和名のシノニミック・リストを添えた。
5. 今回議論された内容や改称の理由など、説明を加えておいた方がよいと思われる当該分類群には、その分類群の右に肩数字を付し、対応した説明文を一括して注釈の項に掲げた。
6. 今回調査した図鑑や分類表の類の文献については、引用の如何に係わらず文献の項に一括して掲載した。

学名・和名一覧

- Superfamily APOIDEA** ミツバチ上科 (素木, 1954) = ハナバチ上科 (岩田, 1971)
- Family COLLETIDAE** ムカシハナバチ科 (Ikudome, 1989) = ミツバチモドキ科 (松村, 1915)
- Subfamily Colletinae ムカシハナバチ亜科 (Ikudome, 1989)
= ミツバチモドキ亜科 (坂上・福田・川野, 1974)
- Tribe Colletini ムカシハナバチ族 (加藤, 1993)
- Genus *Colletes* Latreille, 1802 ムカシハナバチ属 (Ikudome, 1989)
= ミツバチモドキ属 (岩田, 1971)
- Subgenus *Colletes* Latreille, 1802 ムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)
- Subfamily Hylaeinae¹⁾ メンハナバチ亜科 (改称: 幾留)
= ニセツヤハナバチ亜科 (岩田, 1971)
= ハラツヤハナバチ亜科 (坂上・福田・川野, 1974)
= チビムカシハナバチ亜科 (Ikudome, 1989)
- Genus *Hylaeus* Fabricius, 1793 メンハナバチ属 (改称: 幾留)
= ツヤハナバチ属 (岩田, 1971)
= ハラツヤハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

=ツヤハラハナバチ属 (平嶋, 1983a)

=チビムカシハナバチ属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Boreopsis* Ikudome, 1991 キタメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=キタチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1991)

Subgenus *Hylaeus* Fabricius, 1793 メンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=チビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Lambdopsis* Popov, 1939 ツノブトメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=ツノブトチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Nesohylaeus* Ikudome, 1989 シマメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=チビムカシハナバチモドキ亜属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Nesoprosopis* Perkins, 1899 ツヤメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=ツヤチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Noteopsis* Ikudome, 1991 ミナミメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=ナンボウチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1991)

Subgenus *Paraprosopis* Popov, 1939 チビメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=コチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Patagiata* Blüthgen, 1949 コブメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=フタコブチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)

Subgenus *Prosopis* Fabricius, 1804 フクメンハナバチ亜属 (改称: 幾留)

=キイロチビムカシハナバチ亜属 (Ikudome, 1989)

Family HALICTIDAE コハナバチ科 (素木, 1954)

Subfamily Halictinae コハナバチ亜科 (岩田, 1971)

Tribe Halictini コハナバチ族 (坂上, 1992)

Genus *Halictus* Latreille, 1804 アトジマコハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

=アトスジコハナバチ属 (加藤, 1993)

Subgenus *Halictus* Latreille, 1804 アトジマコハナバチ亜属 (坂上・福田・川野, 1974)

Subgenus *Seladonia* Robertson, 1918 ミドリコハナバチ亜属 (坂上・福田・川野, 1974)

Genus *Lasioglossum* Curtis, 1833 コハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

Subgenus *Ctenonomia* Cameron, 1903 ネットタイコハナバチ亜属 (山田・坂上, 1988)

Subgenus *Dialictus* Robertson, 1902 アオコハナバチ亜属 (坂上・福田・川野, 1974)

Subgenus *Evyllaeus* Robertson, 1902 コハナバチ亜属 (坂上・福田・川野, 1974)

Subgenus *Lasioglossum* Curtis, 1833 カタコハナバチ亜属 (山田・坂上, 1988)

=オオコハナバチ亜属 (坂上・福田・川野, 1974)

Genus *Sphecodes* Latreille, 1804 ヤドリコハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

=ハラアカハナバチ属 (常木, 1983)

=ヒメハナバチヤドリ属 (平嶋, 1984)

=ハラアカコハナバチ属 (坂上・前田, 1986)

Subfamily Nomiinae モモブトハナバチ亜科 (坂上・前田, 1986)

=アオスジコハナバチ亜科 (加藤, 1993)

=モモブトコハナバチ亜科 (加藤, 1993)

Genus *Nomia* Latreille, 1804 モモブトハナバチ属 (坂上・前田, 1986)

=スジハナバチ属 (幾留, 1992)

=アオスジコハナバチ属 (加藤, 1993)

Subgenus *Hoplonomia* Ashmead, 1904 スジモモブトハナバチ亜属 (新称: 幾留)

Subgenus *Paranomina* Michener, 1944 アオモモブトハナバチ亜属 (新称: 幾留)

Genus *Pseudapis* Kirby, 1900 アシブトハナバチ属 (幾留, 1992)

Genus *Lipotriches* Gerstäcker, 1857 コンボウハナバチ属 (幾留, 1992)

=*Rhopalomelissa* Alfken, 1926 (syn.: Pauly, 1990) =コンボウコハナバチ属 (加藤, 1993)

Family ANDRENIDAE ヒメハナバチ科 (Yasumatsu, 1938a)

Subfamily Andreninae ヒメハナバチ亜科 (坂上・福田・川野, 1974)

Genus *Andrena* Fabricius, 1775 ヒメハナバチ属 (岩田, 1971)

Subgenus *Andrena* Fabricius, 1775 ヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Calomelissa* Hirashima et LaBerge, 1963 ウツギヒメハナバチ亜属¹¹⁾ (新称: 多田内)

Subgenus *Chlorandrena* Pérez, 1890 キバナヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Cnemidandrena* Hedicke, 1933 ハンゴンヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Euandrena* Hedicke, 1933 ヤヨイヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Gymnandrena* Hedicke, 1933 ワタセヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Habromelissa* Hirashima et LaBerge, 1964 オモゴヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Holandrena* Pérez, 1890 ヒロヅキバナヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Hoplandrena* Pérez, 1890 トゲホオヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Larandrena* LaBerge, 1964 フクイヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Leucandrena* Hedicke, 1933 クロツヤヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Melandrena* Pérez, 1890 アンズヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Micrandrena* Ashmead, 1899 マメヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Mitsukuriapis* Hirashima, LaBerge et Ikudome, new name

ミツクリフシダカヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

The name of *Mitsukuriella* Hirashima et LaBerge, 1965a, was preoccupied by *Mitsukuriella* Heding et Panning, 1954, a genus name in the phylum Echinodermata. Therefore, a new name, *Mitsukuriapis*, is proposed in this paper. We are grateful to Professor Charles D. Michener for his advice.

Subgenus *Notandrena* Pérez, 1890 アマミヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Oreomelissa* Hirashima et Tadauchi, 1975 タカネヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Parandrena* Robertson, 1897 ヤスマツヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Plastandrena* Hedicke, 1933 ヤナギヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Poecilandrena* Hedicke, 1933 キラシマメヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Simandrena* Pérez, 1890 ヤマトヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Stenomelissa* Hirashima et LaBerge, 1965b

ホオナガヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Taeniandrena* Hedicke, 1933 エゾヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subgenus *Trachandrena* Robertson, 1902 タンコクヒメハナバチ亜属 (新称: 多田内)

Subfamily Panurginae チビヒメハナバチ亜科¹²⁾ (改称: 平嶋)

= ヒメハナバチモドキ亜科 (坂上・前田, 1986)

Genus *Panurginus* Nylander, 1848 チビヒメハナバチ属 (改称: 平嶋)

= ヒメハナバチモドキ属 (加藤, 1993)

Family MELITTIDAE ケアシハナバチ科¹³⁾ (素木, 1954)

Subfamily Melittinae ケアシハナバチ亜科¹³⁾ (加藤, 1993)

= ヒメハナバチモドキ亜科 (坂上・福田・川野, 1974)

Genus *Melitta* Kirby, 1802 ケアシハナバチ属^{13), 14)} (加藤, 1993)

= ヒメハナバチモドキ属 (坂上・福田・川野, 1974)

Subfamily Dasypodinae フデアシハナバチ亜科¹³⁾ (改称: 幾留)

= ケアシハナバチ亜科 (坂上・福田・川野, 1974)

= シロスジケアシハナバチ亜科 (加藤, 1993)

Genus *Dasypoda* Latreille, 1802 フデアシハナバチ属^{13), 15)} (改称: 幾留)

= ケアシハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

= シロスジケアシハナバチ属 (加藤, 1993)

Subfamily Macropidinae クサレダマバチ亜科^{13), 16)} (坂上・福田・川野, 1974)

= クロツヤケアシハナバチ亜科 (加藤, 1993)

Genus *Macropis* Klug in Panzer, 1809 クサレダマバチ属^{13), 16)} (坂上・福田・川野, 1974)

= ツヤケアシハナバチ属 (加藤, 1993)

Family MEGACHILIDAE ハキリバチ科 (楚南, 1931)

Subfamily Lithurginae キホリハナバチ亜科 (岩田, 1971)

Genus *Lithurge* Latreille, 1825 キホリハナバチ属 (岩田, 1971)

Subfamily Megachilinae ハキリバチ亜科 (岩田, 1971)

Tribe Anthidini モンハナバチ族 (坂上・前田, 1986)

Genus *Anthidium* Fabricius, 1804 モンハナバチ属 (安松, 1939)

Genus *Euaspi* Gerstäcker, 1857 ヤドリハキリバチ属¹⁷⁾ (改称: 坂上)

= ハキリヤドリバチ属 (安松, 1937)

= ハラアカハナバチ属 (坂上・前田, 1986)

=ハラアカハキリバチヤドリ属 (加藤, 1993)

Subgenus *Parevaspis* Ritsema, 1874 ハラアカヤドリハキリバチ亜属 (新称: 幾留)

Tribe Megachilini ハキリバチ族 (岩田, 1971)

Genus *Chalicodoma* Lepeletier, 1841 ヤニハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

=オオハキリバチ属 (加藤, 1993)

Subgenus *Callomegachile* Michener, 1962 ビレイヤニハナバチ亜属 (新称: 平嶋)

Subgenus *Chelostomoda* Michener, 1962 ヒメヤニハナバチ亜属 (新称: 幾留)

Subgenus *Eumegachilana* Michener, 1965 オオヤニハナバチ亜属 (新称: 幾留)

Genus *Coelioxys* Latreille, 1809 トガリハナバチ属 (岩田, 1971)

=トガリハキリバチ属 (加藤, 1993)

Genus *Heriades* Spinola, 1808 コハキリバチ属¹⁸⁾ (新称: 幾留)

Genus *Megachile* Latreille, 1802 ハキリバチ属 (安松, 1938b)

Subgenus *Eutricharaea* Thomson, 1872 キヌゲハキリバチ亜属 (新称: 幾留)

Subgenus *Megachile* Latreille, 1802 ハキリバチ亜属¹⁹⁾ (新称: 幾留)

Genus *Osmia* Panzer, 1806 ツツハナバチ属 (岩田, 1971)

Subgenus *Chalcosmia* Schmiedeknecht, 1885 マイマイツツハナバチ亜属 (新称: 平嶋)

Subgenus *Osmia* Panzer, 1806 ツツハナバチ亜属 (新称: 幾留)

Family ANTHOPHORIDAE コシブトハナバチ科 (奥谷, 1977)

=スズハナバチ科 (楚南, 1929)

=アオスズハナバチ科 (素木, 1954)

=ケブカハナバチ科 (岩田, 1971)

=ハナバチ科 (安松, 1972)

Subfamily Nomadinae キマダラハナバチ亜科 (坂上・福田・川野, 1974)

=ヤドリハナバチ亜科 (岩田, 1971)

Tribe Nomadini キマダラハナバチ族 (坂上・前田, 1986)

Genus *Nomada* Scopoli, 1770a キマダラハナバチ属 (常木, 1973)

Tribe Epeolini スジヤドリハナバチ族²⁰⁾ (改称: 幾留)

=ヤドリハナバチ族 (加藤, 1993)

Genus *Epeolus* Latreille, 1802 ムカシハナバチヤドリ属²⁰⁾ (改称: 幾留)

=ヤドリハナバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)

=ヤドリミツバチ属 (坂上・前田, 1986)

Genus *Triepeolus* Robertson, 1901 スジヤドリハナバチ属²⁰⁾ (改称: 幾留)

=ヤドリハナバチモドキ属 (幾留, 1992)

=シロスジヤドリハナバチ属 (加藤, 1993)

Tribe Ammobatini タイリクヤドリハナバチ族 (新称: 幾留)

Genus *Pasites* Jurine, 1807 ベニヤドリハナバチ属²¹⁾ (幾留, 1992)

=ノミアヤドリハナバチ属 (安松, 1935)

Subfamily Anthophorinae コシブトハナバチ亜科 (平嶋, 1989) = ケブカハナバチ亜科 (岩田, 1971)

Tribe Anthophorini コシブトハナバチ族 (改称: 幾留) = ケブカハナバチ族 (加藤, 1993)

Genus *Amegilla* Friese, 1897 フトハナバチ属 (改称: 幾留) = コシブトハナバチ属 (幾留, 1992)

Genus *Anthophora* Latreille, 1802 コシブトハナバチ属 (改称: 幾留)
= ケブカハナバチ属 (幾留, 1992)

Tribe Melectini ヤドリコシブトハナバチ族 (改称: 平嶋) = ルリモンハナバチ族 (加藤, 1993)

Genus *Thyreus* Panzer, 1806 ルリモンハナバチ属 (坂上・前田, 1986)
= モンハナバチ属 (幾留, 1992)

Tribe Eucerini ヒゲナガハナバチ族 (坂上・前田, 1986)

Genus *Eucera* Scopoli, 1770b ヒゲナガハナバチ属 (坂上・前田, 1986)
= ヒゲナガバチ属 (坂上・福田・川野, 1974)
= ハイイロヒゲナガハナバチ属 (加藤, 1993)

Genus *Tetralonia* Spinola, 1838 ミヘヤヒゲナガハナバチ属 (改称: 幾留)
= ヒゲナガバチモドキ属 (坂上・福田・川野, 1974)
= ヒゲナガハナバチ属 (加藤, 1993)

Subfamily Xylocopinae クマバチ亜科 (岩田, 1971)

Tribe Ceratinini ツヤハナバチ族 (岩田, 1971)

Genus *Ceratina* Latreille, 1802 ツヤハナバチ属 (Yasumatsu et Hirashima, 1969)
= ケラチナ属 (塩川, 1981a)

Subgenus *Ceratina* Latreille, 1802 ツヤハナバチ亜属 (坂上・前田, 1986)
= ケラチナ亜属 (塩川, 1981a)

Subgenus *Ceratinidia* Cockerell et Porter, 1899 オビツヤハナバチ亜属 (新称: 幾留)
= ケラチニディア亜属 (塩川, 1981a)

Subgenus *Neoceratina* Perkins, 1912 チビツヤハナバチ亜属 (新称: 坂上)
= ネオケラチナ亜属 (塩川, 1981a)

Genus *Pithitis* Klug, 1807 シッポウハナバチ属 (坂上・前田, 1986)
= ピスイティス属 (塩川, 1981b)

Tribe Xylocopini クマバチ族 (岩田, 1971)

Genus *Xylocopa* Latreille, 1802 クマバチ属 (楚南, 1932)
Subgenus *Alloxylocopa* Maa, 1939 トウヨウクマバチ亜属 (新称: 幾留)
Subgenus *Koptortosoma* Gribodo, 1894 ナンポウクマバチ亜属 (新称: 平嶋)

Family APIDAE ミツバチ科 (松村, 1908)

Subfamily Bombinae マルハナバチ亜科 (岩田, 1971)

Tribe Bombini マルハナバチ族 (坂上・前田, 1986)

Genus *Bombus* Latreille, 1802 マルハナバチ属 (岩田, 1971)
Subgenus *Bombus* Latreille, 1802 オオマルハナバチ亜属 (伊藤, 1991)

Subgenus *Diversobombus* Skorikov, 1914 トラマルハナバチ亜属 (伊藤, 1991)

Subgenus *Megabombus* Dalla Torre, 1880 ナガマルハナバチ亜属 (伊藤, 1991)

Subgenus *Pyrobombus* Dalla Torre, 1880 コマルハナバチ亜属 (伊藤, 1991)

Subgenus *Thoracobombus* Dalla Torre, 1880 ユーラシマルハナバチ亜属 (伊藤, 1991)

Genus *Psithyrus* Lepeletier, 1832 ヤドリマルハナバチ属 (伊藤, 1991)

=マルハナバチヤドリ属 (安松, 1933)

Subgenus *Fernaldaepsithyrus* Frison, 1927 フェルナルドヤドリマルハナバチ亜属 (伊藤, 1991)

Subfamily Apinae ミツバチ亜科 (楚南, 1927)

Tribe Apini ミツバチ族 (坂上・前田, 1986)

Genus *Apis* Linnaeus, 1758 ミツバチ属 (楚南, 1927)

Subgenus *Apis* Linnaeus, 1758 ミツバチ亜属 (新称: 幾留)

注 釈

- 1) 形容詞的用法の繰り返しは下位の分類群へいくにしたがって長くなる嫌いがあるので改称した方がよいのではないかと、との意見に基づき、近年整理・改称されたばかりではあるが、この際思い切ってより短い名称に改称することとした。従って、本亜科に属する全ての分類群に付けられていた「チビムカシハナバチ」は、今後「メンハナバチ」に置き換えて用いられたい。なお、「メン」とは、本亜科のほとんどの種の頭部顔面に黄(白)色の斑紋があることに由来し、「仮面を付けているような」という意味である。
- 2) 「モドキ」という接尾辞は、「まがいもの」という意味だけでなく「にせもの」という意味を帯びているので、生物の名としては相応しくないという理由(平嶋, 1989a: p. 296)により改称することとした。また、本亜属の種名のなかに「モドキ」とついたものがあるが、これを「ニタリ」に置き換えて用いることも考えられたが、広辞苑によると「ニタリ」も「にせ」「まがいもの」とあり、「モドキ」の意味と同義であるので、いずれもできるだけ用いないことにしたい。なお、「シマ」は、学名の一部に付けられた neso すなわちギリシャ語の nesos=「島」に由来する。
- 3) 本亜属の *Hylaeus* (*Nesoprosopis*) *globula* (Vachal) の和名すなわちスミスチビムカシハナバチモドキの「モドキ」も、2)と同じ理由により改称することとし、日本から J. Harmand によって初めて(1901年)採集されたのに因んでアルマンメンハナバチ(改称: 幾留)とする。また、*Hylaeus* (*Nesoprosopis*) *insularum insularum* Yasumatsu et Hirashima の和名、シマノチビムカシハナバチはシマノメンハナバチとなるところであるが、シマメンハナバチ亜属と紛らわしくなるので改称することとし、本種の分布域が海流の黒潮流域に沿っていることに因んでクロシオメンハナバチとしたい。
- 4) *Boreopsis* すなわちキタメンハナバチ亜属 (bore=ギリシャ語の boreios=北の)に対応する「ミナミ」(noteo=ギリシャ語の notios=南の)を採用した方がすっきりするという理由により改称した。
- 5) 「コ」と「チビ」は同義で重複形容となるので改称することとし、「チビ」の方を残した。「チビ」

の用法については蔑称的ではないか、との指摘もあったが、「ちびすけ」のように用いる場合にはそうかも知れないが、「おちびさん」のように用いることもあり、このような場合は愛称的であるのでそのような意味合いに受けとめることとしたい。なお、本亜属の1種 *Hylaeus meridianus* Yasumatsu et Hirashima の和名ミナミノチビムカシハナバチは、ミナミノメンハナバチとなるところであるが、ミナミノメンハナバチ亜属と紛らわしいので、前方から見た頭部の輪郭がほぼ円形に近い形態的特徴を「手毬のように丸い」と形容して、テマリメンハナバチ（改称：幾留）としたい。

6) 簡素化するために「フタ」を省いた。

7) 「キイロ」は顔面に現われる黄色の斑紋に由来しているが、これは属レベルで共通した特徴であるので、この際この部分も改称しておきたい。改称の「フクメン」は、本亜属の本邦産種の特に雄の顔面黄斑紋が触角窩の下方全域に広がっている様を、あたかも覆面をしているかのように見たものである。なお、本亜属の1種、*Hylaeus (Prosopis) submonticola* Ikudome の和名ヤマノチビムカシハナバチモドキは、2) と同じ理由により、模式標本の中で採集年月日の最も古い(1951年)標本の産地(愛媛県面河溪)に因んで、オモゴメンハナバチ（改称：幾留）とする。

ここで、メンハナバチ属の種の和名を以下に整理（改称：幾留）しておきたい（日本産昆虫総目録Ⅱ, pp. 679-680参照）。なお、分布地も再掲したが、その後の追加すべき分布地もその典拠を（ ）内に示して加えた。

Hylaeus (Boreopsis)

ikedai (Yasumatsu, 1936) イケダメンハナバチ 小

macilentus Ikudome, 1989 ホソメンハナバチ 北, 本

Hylaeus (Hylaeus)

paulus Bridwell, 1919 ヒメメンハナバチ 北, 礼, 利, 焼尻, 本, 九; 韓国

perforatus (Smith, 1873) オモナガメンハナバチ 本

Hylaeus (Lambdopsis)

nipponicus Bridwell, 1919 ツノブトメンハナバチ 北, 礼, 利, 焼尻, 本, 佐, 九; 南千島

Hylaeus (Nesohylaeus)

niger Bridwell, 1919 ツグロメンハナバチ 北, 本

Hylaeus (Nesoprosopis)

boninensis Yasumatsu, 1955 オガサワラメンハナバチ 小

floralis (Smith, 1873) スミスメンハナバチ 北, 本, 佐, 四, 九

globula (Vachal, 1903) アルマンメンハナバチ 北, 本, 佐, 四, 九, 対

insularum insularum Yasumatsu et Hirashima, 1965 クロシオメンハナバチ 本, 伊八, 四, 九, 九沖, 下甌, ト硫黄, 薩黒, 種, 屋, 口永, ト, 奄, 喜界, 加計, 徳, 沖永, 与論, 沖縄, 宮

insularum iriomotensis Yasumatsu et Hirashima, 1965 イリオモテメンハナバチ 石, 西, 与那

matsumurai Bridwell, 1919 マツムラメンハナバチ 北, 本, 四, 九, 対, 天草

nippon Hirashima, 1977 ニッポンメンハナバチ 北, 本, 佐, 四, 九, 対, 屋; 韓国

noomen Hirashima, 1977 ノウメンハナバチ 北, 本, 伊八, 四, 九, 甌

pectoralis Förster, 1871 ヨーロッパメンハナバチ 北, 本; ヨーロッパ

Hylaeus (Noteopsis)

nanseiensis Ikudome, 1989 ナンセイメンハナバチ 奄, 徳, 粟国 (Ikudome, 1991), 久米 (Ikudome, 1991), 沖縄, 宮

Hylaeus (Paraprosopis)

hirashimai Ikudome, 1989 ヒラシマメンハナバチ 本, 伊八, 九, 九沖, 対, 甌, 屋, ト

incomitatus Snelling, 1970 キムネメンハナバチ 小

meridianus Yasumatsu et Hirashima, 1965 テマリメンハナバチ 奄, 沖縄

thoracicus Ikudome, 1989 ムナゲメンハナバチ 北, 本

yasumatsui Snelling, 1970 ヤスマツメンハナバチ 小

Hylaeus (Patagiata)

paradiformis Ikudome, 1989 ヒョットコメンハナバチ 北, 利, 本, 九

Hylaeus (Prosopis)

monticola Bridwell, 1919 ヤマノメンハナバチ 北, 利, 本, 対

submonticola Ikudome, 1989 オモゴメンハナバチ 北, 本, 四, 九

8) 学名と和名の対応が分類群の間で統一性に欠けており紛らわしくはないか, との意見があったが, 「コハナバチ」の名に相応しい形態をした分類群という観点と, 今後種名をつける際に冗長を防止する, という二つの主な理由から, 表記のようにして欲しい旨の要望があり (坂上), 最終的にこれに合意した。なお参考までに, さらに次のような申し合わせをしておいてはどうか, とも要望があったので記しておく。種名においては, 今後, *carinate Evylaeus* グループにのみ「コハナバチ」をあて, *carinaless Evylaeus* グループは「チビハナバチ」とする。その理由は, 今後分類が進めば, 後者は日本産花蜂類中最大のグループになる可能性が高いので, 少なくとも前者とは区別し, かつ「チビコハナバチ」のように同義の重複形容となることを避けるためからである。また, カタコハナバチ亜属の一部は種名を「ツヤコハナバチ」とする。

9) 本亜属の2種, すなわち *Lasioglossum (Ctenonomia) kumejimense* (Matsumura et Uchida) と *L. (C.) blakistoni* Sakagami et Munakata の和名は, 前者がクメジマコハナバチ (新称: 坂上) および後者がブラキストンコハナバチ (新称: 坂上) とする。

10) 「ハラアカ (コ) ハナバチ」は特徴をよく表しているが, 腹部の赤い花蜂は他の科にも, またコハナバチ科の他の属にもいるので, 寄生性のコハナバチという意味のヤドリコハナバチを採用することとした。

11) 以下の亜属名は, それぞれ所属する種の中から選択された和名である。したがって, 亜属名と同じ和名が例外なく種名にも出てくる。

12) 2) と同じ理由からである。なお, 本属の *Panurginus crawfordi* Cockerell の和名もチビヒメハナバチ (改称: 平嶋) としたい。

13) 各分類群の学名と和名に統一性を持たせるために整理した。

14) 本属の *Melitta ezoana* Yasumatsu et Hirashima の和名は, エゾケアシハナバチ (新称: 幾留) とする。

15) 本属の日本産種は *Dasypoda japonica* Cockerell の1種だけであるので, その和名, すなわちシロスジケアシハナバチを尊重して属名にスジケアシハナバチを用いることも考えられたが, 少々くどいので, この際, 雌後脚の花粉採集毛が柔らかい筆状になっている特徴に因んで改称した。なお, 種名はシロスジフデアシハナバチ (改称: 幾留) にしたい。

- 16) 「クサレダマ」は、サクラソウ科の *Lysimachia vulgaris* Linn. var. *davurica* (Ledeb.) R. Knuth の和名クサレダマに因るものである。本属のハナバチはクサレダマの花を好んで訪れる。なお、本属の2種の和名は以下のようにしたい。

Macropis dimidiata Yasumatsu et Hirashima ツヤクサレダマバチ (新称: 幾留)

Macropis tibialis Yasumatsu et Hirashima シロアシクサレダマバチ (新称: 幾留)

- 17) ハラアカハナバチ属はハラアカコハナバチ属と紛らわしいので、従来のハキリバチヤドリ属を採用するが、「ハキリバチに寄生する」昆虫はハチ以外にもいるので、「寄生性のハキリバチ」という意味でヤドリハキリバチ属とした。なお、本属の2種の和名も同様の理由により、*Euaspsis basalis* (Ritsema) をハラアカヤドリハキリバチ (改称: 坂上) および *E. polynesia* Vachal をコハラアカヤドリハキリバチ (改称: 坂上) として用いたい。

- 18) 本属の種には未だ和名がなかったので、これを機に和名を与えておきたい。

Heriades fujiyamai Yasumatsu et Hirashima フジヤマコハキリバチ (新称: 幾留)

Heriades fulvohispidus Yasumatsu et Hirashima オガサワラコハキリバチ (新称: 幾留)

Heriades sakishimanus Yasumatsu et Hirashima サキシマコハキリバチ (新称: 幾留)

- 19) 本亜属の1種、*Megachile* (*Megachile*) *tsurugensis* Cockerell の和名はバラハキリバチモドキであるが、2) と同じ理由による「モドキ」を用いないこととし、学名にも取り入れられている産地 (敦賀) に因んでツルガハキリバチ (改称: 幾留) としたい。

- 20) ヤドリハナバチという名称は簡潔ではあるが、総称的でもある。すなわち、寄生性の花蜂は他のグループにもいるので、いずれそれらと区別して呼びたくなることが予想される。そこで、まずは本族の種の腹部背板にある明瞭な (黄) 白毛帯に因んで *Epeolini* をスジヤドリハナバチ族とした。次に、*Epeolus* は現在までのところ全ての既知種が *Colletes* (ムカシハナバチ属) だけに労働寄生することが知られているので、この属をムカシハナバチヤドリ属と呼ぶことにする。一方、*Triepeolus* は寄主がよく判っていないので、族の和名と同じように形態的特徴に由来するスジヤドリハナバチ属とする。なおこの際、*Epeolus* の各種の和名も次のように改称あるいは新称を与えておきたい。

Epeolus japonicus Bischoff ヤマトムカシハナバチヤドリ (改称: 幾留)

Epeolus coreanus Yasumatsu キスジムカシハナバチヤドリ (改称: 幾留)

Epeolus melectiformis Yasumatsu シロモンムカシハナバチヤドリ (改称: 幾留)

Epeolus tarsalis himukanus Hirashima シイバムカシハナバチヤドリ (新称: 幾留)

Epeolus tsushimensis Cockerell ツシマムカシハナバチヤドリ (新称: 幾留)

- 21) 「整理の方針, 3. a.」の理由による。

- 22) 3者を総合して、「…モドキ」は2) と同じ理由により不採用、「ヒゲナガバチ」は字数が少なく最適と思われたが、「ヒゲナガハナバチ」は種名に用いられているのみならず特徴あるポピュラーな花蜂として通常そう呼称されているので、こちらを採択した。因みに、「ミヘヤ…」は前翅の肘室が3室あることによる (*Eucera* は2室)。

- 23) 日本産クマバチの分類体系について触れておきたい。日本産昆虫総目録 (p. 690) においては、*ogasawarensis* (Matsumura, 1912) が *Mesotrichia* 属として扱われているが、世界のクマバチを検討した Hurd, Jr. & Moure (1963) によれば、本種は *Xylocopa* の1亜属 *Koptortosoma* に分類されているので、ここではそのように取り扱いたい。なお、日本産昆虫総目録に示された *Xylocopa* の4種の亜属は、*Alloxylocopa* である。

- 24) 「トウヨウ」は、本亜属のクマバチが東部旧北区から東洋区 (印度支那および南支那) にかけて

分布することに因る。

- 25) 「ナンボウ」は、本亜属のクマバチが主としてエチオピア区と東洋区に分布（南部旧北区とオーストラリア区にも見出される）することに因る。

附1. 英名について

参考までに、ハナバチの各種（群）を英語で通称どのように呼んでいるか、主に O'Toole & Raw (1991) の中に出てくるものに基づいてリスト・アップしてみると以下のようである（アルファベット順）。

blue band bees: *Nomia* (モモブトハナバチ属) のハナバチ

bumblebees: Bombini (マルハナバチ族) のハナバチ

carder bee: *Anthidium* (モンハナバチ属) の1種

carpenter bees (or carpenters): Xylocopinae (クマバチ亜科) のハナバチ

cuckoo bees: 労働寄生性のハナバチ

cuckoo bumblebees: *Psithyrus* (ヤドリマルハナバチ属) のハナバチ

dwarf (or small) carpenter bees: Ceratinini (ツヤハナバチ族) のハナバチ

giant (or large) carpenter bees: Xylocopini (クマバチ族) のハナバチ

honeybees: *Apis* (ミツバチ属) のハナバチ

leaf-cutter bees (or leaf-cutters): Megachilinae (ハキリバチ亜科) のハナバチ

longhorn bees (or longhorns): Eucerini (ヒゲナガハナバチ族) のハナバチ

masked bees: Hylaeinae (メンハナバチ亜科) のハナバチ

megachilid carpenter bees (or megachilid carpenters): *Lithurge* (キホリハナバチ属) のハナバチ

sweat bees: Halictidae (コハナバチ科) のハナバチ

wild bees: 飼養ミツバチ以外の（野生）ハナバチ

以上のような呼称のほかに、学名を用いる言い方もある。例えば、Halictidae (コハナバチ科) のハナバチは halictid bees, Halictinae (コハナバチ亜科) のハナバチであれば halictine bees のごときである。

また、営巣習性や、孤独性・社会性などの多様性を類別するのに用いられる生態学的用語があるが、これについては割愛する。

Appendix 2.

Basic Japanese-English list on the Japanese names

Japanese	pronunciation	English
上科	jôka	superfamily
科	ka	family
亜科	aka	subfamily
族	zoku	tribe
属	zoku	genus
亜属	azoku	subgenus
種	shu	species
亜種	ashu	subspecies
ハチ, ~バチ	hachi, ~bachi	Hymenoptera (usually except ants)
ハナバチ	hana-bachi	flower + hachi; bees (Apoidea)
ムカシハナバチ	mukashi-hanabachi	old, ancient, proto-, +bees; Colletidae, Colletinae, Colletini, <i>Colletes</i>
メンハナバチ	men-hanabachi	masked + bees; Hylaeinae, <i>Hylaeus</i>
コハナバチ	ko-hanabachi	small, dwarf, +bees; Halictidae, Halictinae, Halictini, <i>Lasioglossum</i>
アトジマコハナバチ	ato-jima-ko-hanabachi	post- + banded + small + bees; <i>Halictus</i>
ヤドリ~, ~ヤドリ	yadori~, ~yadori	parasitic, cuckoo, cleptoparasitic; ex. yadori-ko-hanabachi = <i>Sphecodes</i> , yadori-hakiri-bachi = <i>Euaspis</i> , mukashi-hanabachi-yadori = <i>Epeolus</i> , suji (means banded)-yadori-hanabachi = <i>Triepeolus</i> , beni (means red)-yadori-hanabachi = <i>Pasites</i> , yadori-maru (means thickset, pudgy)-hanabachi = <i>Psithyrus</i> etc.
モモブトハナバチ	momo-buto-hanabachi	leg (femur, tibia) + swollen + bees; Nomiinae, <i>Nomia</i>
アシブトハナバチ	ashi-buto-hanabachi	leg + swollen + bees; <i>Pseudapis</i>
コンボウハナバチ	konbô-hanabachi	cudgel + bees; <i>Lipotriches</i>
ヒメハナバチ	hime-hanabachi	princess, dwarf, +bees; Andrenidae, Andreninae, <i>Andrena</i>
チビヒメハナバチ	chibi-hime-hanabachi	small + princess, dwarf, +bees; Panurginae, <i>Panurginus</i>
ケアシハナバチ	ke-ashi-hanabachi	hairy + leg + bees; Melittidae, Melittinae,

Japanese	pronunciation	English
		<i>Melitta</i>
フデアシハナバチ	fude-ashi-hanabachi	brushy + leg + bees; Dasypodinae, <i>Dasypoda</i>
クサレダマバチ	kusaredama-bachi	Japanese name of <i>Lysimachia vulgaris</i> Linn. (Primulaceae) + bees; Macropidinae, <i>Macropis</i>
ハキリバチ	ha-kiri-bachi	leaf + cutter + bees; Megachilidae, Megachilinae, <i>Megachile</i>
キホリハナバチ	ki-hori-hanabachi	wood + carve + bees; Lithurginae, <i>Lithurge</i>
モンハナバチ	mon-hanabachi	marked + bees; Anthidini, <i>Anthidium</i>
ヤニハナバチ	yani-hanabachi	resin + bees; <i>Chalicodoma</i>
トガリハナバチ	togari-hanabachi	peaked (abdomen) + bees; <i>Coelioxys</i>
コハキリバチ	ko-ha-kiri-bachi	dwarf + leaf + cutter + bees; <i>Heriades</i>
ツツハナバチ	tsutsu-hanabachi	pipe, tube, + bees; <i>Osmia</i>
コシブトハナバチ	koshi-buto-hanabachi	waist + fat (thick) + bees; Anthophoridae, Anthophorinae, Anthophorini, <i>Anthophora</i>
キマダラハナバチ	ki-madara-hanabachi	yellow + spotted (dapple) + bees; Nomadinae, Nomadini, <i>Nomada</i>
フトハナバチ	futo-hanabachi	thick + bees; <i>Amegilla</i>
ルリモンハナバチ	ruri-mon-hanabachi	emerald + spotted (dapple) + bees; <i>Thyreus</i>
ヒゲナガハナバチ	hige-naga-hanabachi	antenna + long + bees, longhorn bees; Eucerini, <i>Eucera</i>
ミヘヤ〜	mi-heya〜	three, tri, + cell; mi-heya-hige-naga-hana- bachi = <i>Tetralonia</i>
クマバチ	kuma-bachi	bear, big, + bees; Xylocopinae, Xylocopini, <i>Xylocopa</i>
ツヤハナバチ	tsuya-hanabachi	polished + bees; Ceratinini, <i>Ceratina</i>
シッポウハナバチ	shippo-hanabachi	cloisonné + bees; <i>Pithitis</i>
ミツバチ	mitsu-bachi	honey + bees; Apoidea, Apidae, Apinae, Apini, <i>Apis</i>
マルハナバチ	maru-hanabachi	thickset, pudgy, + bees; Bombinae, Bombini, <i>Bombus</i>

文 献

1. 学名に関する文献

- Alfken, J. D., 1926. Fauna Buruana. Hymenoptera, Fam. Apidae. *Treubia*, 7: 259-275.
- Ashmead, W. H., 1899. Classification of the bees, or the superfamily Apoidea. *Trans. Amer. Ent. Soc.*, 26: 49-100.
- Ashmead, W. H., 1904. A list of the Hymenoptera of the Philippine Islands, with descriptions of new species. *Jour. New York Ent. Soc.*, 12: 1-22.
- Blüthgen, P., 1949. Neues oder Wissenswertes über mitteleuropäische Aculeaten und Goldwespen. I Apidae. *Beitr. tax. Zool.*, 1: 77-100.
- Cameron, P., 1903. Descriptions of new genera and species of Hymenoptera taken by Mr. Robert Shelford at Sarawak, Borneo. *Jour., Straits Branch, Royal Asiatic Soc.*, 39: 90-179 (178-179 pp.).
- Cockerell, T. D. A. & W. Porter, 1899. Contributions from the New Mexico Biological Station.-VII. Observations on bees, with descriptions of new genera and species. *Ann. Mag. Nat. Hist., ser. 7*, 4: 403-421.
- Dalla Torre, K. W. v., 1880. Unsere Hummel-Arten. *Der Naturhistoriker*, ii, p. 40.
- Fabricius, J. C., 1775. *Systema entomologiae*. Xxx+832 pp. (p. 376). Flensburg and Leipzig: Korte.
- Fabricius, J. C., 1793. *Entomologia systematica emendata et aucta*. Christ. Gottl. Proft., vol. 2, viii+519 pp. Copenhagen.
- Fabricius, J. C., 1804. *Systema piezatorum*. Xiv+15+440 pp. Brunswick: Reichard.
- Friese, H., 1897. *Die Bienen Europa's*. Vol. 3, vi+316 pp. Berlin.
- Frison, T. H., 1927. A contribution to our knowledge of the relationship of the Bremidae of America north of Mexico (Hymenoptera). *Trans. Amer. Ent. Soc.*, 53: 51-78, 2 pls.
- Gerstäcker, A., 1857. Bees and wasps collected in Mozambique. (The article is untitled, included in the minutes of a meeting of the society, in German and Latin.) *Monatsberichte, Akademie der Wissenschaften, Berlin*, 1857: 460-464 pp. (p. 461).
- Gribodo, G., 1894. Nuovi generi e nuove specie di imenotteri antofili ed osservazioni sopra alcune specie già conosciute. *Bull. Soc. Ent. Italiana*, 26: 76-136.
- Hurd, Jr., P. D. and J. S. Moure, C. M. F., 1963. A classification of the large carpenter bees (Xylocopini) (Hymenoptera: Apoidea). 365 pp. Univ. California Press, Berkeley and Los Angeles.
- Hedicke, H., 1933. Beiträge zur Systematik der Gattung *Andrena* F. (Hym. Apid.). *Berlin Zool. Mus., Mitt.*, 19: 199-220.
- Heding, S. G. and A. Panning, 1954. Phyllophoridae. Eine Bearbeitung der Polytentaculaten Dendrochiroten Holothurien des Zoologischen Museums in Kopenhagen. *Spolia zool. Mus.*

Hauniensis XIII. (*Mitsukuriella*, p. 40.)

- Hirashima, Y., 1963. Systematic and biological studies of the family Andrenidae of Japan (Hymenoptera, Apoidea). Part 2. Systematics, 2. *J. Fac. Agr., Kyushu Univ.*, 12(4): 241-263.
- Hirashima, Y., 1964. Systematic and biological studies of the family Andrenidae of Japan (Hymenoptera, Apoidea). Part 2. Systematics, 4. *Ibid.*, 13(1): 71-97.
- Hirashima, Y., 1965a. Systematic and biological studies of the family Andrenidae of Japan (Hymenoptera, Apoidea). Part 2. Systematics, 5. *Ibid.*, 13(3): 461-491.
- Hirashima, Y., 1965b. Systematic and biological studies of the family Andrenidae of Japan (Hymenoptera, Apoidea). Part 2. Systematics, 6. *Ibid.*, 13(3): 493-517.
- Hirashima, Y. & O. Tadauchi, 1975. A new subgenus of the genus *Andrena* (Hymenoptera, Andrenidae) from Japan and allied areas. *Ibid.*, 19: 175-186.
- Ikudome, S., 1989. A revision of the family Colletidae of Japan (Hymenoptera, Apoidea). *Bull. Inst. Minami-kyûshû Reg. Sci., Kagoshima Women's Junior College*, (5): 43-314.
- Ikudome, S., 1991. Two new subgenera of *Hylaeus* (Hymenoptera, Colletidae). *Jpn. J. Ent.*, 59(4): 789-792.
- Jurine, L., 1807. Nouvelle méthode de classer les hyménoptères et les diptères. Vol. 1, iv + 320 + 4 pp., 14 pls. (p. 224). Geneva: Paschoud.
- Kirby, W., 1802. Monographia apum Angliae. Vol. 1, 22 + 258 pp., 14 pls. Ipswich.
- Kirby, W. F., 1900. The expedition to Sokotra. Description of the new Hymenoptera. *Bull. Liverpool Mus.*, 3: 13-24.
- Klug, J. C. F., 1807. Vergleichung der Gattungen der Hautflügler Piezota Fabr. Hymenoptera Linn. *Jur. Mag. f. Insektenk.*, 6: 189-199.
- LaBerge, W. E., 1964. Prodromus of American bees of the genus *Andrena* (Hymenoptera, Apoidea). *Bull. Univ. Nebr. State Mus.*, 4: 279-316.
- Latreille, P. A., 1802. Histoire naturelle de fourmis. Xvi + 445 pp., 12 pls. (*Megachile*, p. 413; *Colletes*, p. 423; *Dasypoda*, p. 424; *Epeolus*, p. 427; *Anthophora*, p. 430; *Xylocopa*, p. 432; *Ceratina*, p. 433; *Bombus*, p. 437). Paris: Theophile Barrois.
- Latreille, P. A., 1804. Tableau méthodique des insectes. In Nouveau dictionnaire d'histoire naturelle [Déterville]. Vol. 24, Tableaux méthodiques, 129-200 pp. (p. 182). Paris.
- Latreille, P. A., 1809. Genera crustaceorum et insectorum. Vol. 4, 399 pp. (p. 166). Paris.
- Latreille, P. A., 1825. Familles naturelles du règne animal. 570 pp. (p. 463). Paris.
- Lepelletier de Saint-Fargeau, A. L. M., 1832. Observations sur l'ouvrage intitulé: Bombi Scandinaviae monographice tractato, et., a Gustav Dahlbom. *Annales de la Société Entomologique de France*, (1): 366-382 (p. 372).
- Lepelletier de Saint-Fargeau, A. L. M., 1841. Histoire naturelle insectes, hyménoptères. Vol. 2, 680 pp. (p. 309). Paris.

- Linnaeus, C., 1758. *Systema naturae*. Editio decima, reformata. 824 pp. (p. 343). Stockholm.
- Maa, T. -C., 1939. *Xylocopa orientalia critica* (Hymen.), I: Subgenus *Bomboixylocopa* novum. *Lingnan Sci. Jour.*, 18: 155-160 (p. 155).
- Michener, C. D., 1944. Comparative external morphology, phylogeny and a classification of the bees (Hymenoptera). *Bull. Amer. Mus. Nat. Hist.*, 82: 153-326, 246 figs.
- Michener, C. D., 1962. Observations on the classification of the bees commonly placed in the genus *Megachile* (Hymenoptera: Apoidea). *Jour. New York Ent. Soc.*, 70: 17-29.
- Michener, C. D., 1965. A classification of the bees of the Australian and South Pacific Regions. *Bull. Amer. Mus. Nat. Hist.*, 130: 1-362, 15 pls.
- Nylander, W., 1848. *Notiser Sällskapet Fauna Flora Fennica*. Vol. 1, p. 223.
- Panzer, G. W. F., 1806. *Kritische Revision der Insektenfauna Deutschlands*. Vol. 2, [12] + 271 pp. (*Osmia*, p. 230; *Thyreus*, p. 263). Nürnberg.
- Panzer, G. W. F., 1809. *Faunae Insectorum Germaniae Initia*. Heft 107, No.16. Nürnberg.
- Pauly, A., 1990. Classification des Nomiinae Africains (Hymenoptera Apoidea Halictidae). *Ann. Sci. Zool., Musée Royal l'Afrique Centrale, Tervuren, Belgique*, 261: 1-206. (*Lipotriches*, p. 162.)
- Pérez, J., 1890. Catalogue des Mellifères du sud-ouest. *Act. Soc. Linn. Bordeaux*, 44: 133-200.
- Perkins, R. C. L., 1899. Hymenoptera Aculeata. *Fauna Hawaiiensis*, 1(1): 1-115.
- Perkins, R. C. L., 1912. Notes, with descriptions of new species, on aculeate Hymenoptera of the Australian Region. *Ann. Mag. Nat. Hist., ser. 8*, 9: 96-121.
- Popov, V. V., 1939. Subgeneric groupings of genus *Prosopis* F. (Hym.). *Comptes Rendus (Dokl.) Acad. Sci. URSS*, 25(2): 167-170.
- Ritsema, C., 1874. Observations on conopids and on the generic position of certain species of *Stelis*. *Tijdschr. voor Ent.*, vol. 17, lxxviii-lxxv pp. (p. lxxi).
- Robertson, C., 1897. North American bees-- Descriptions and Synonyms. *Trans. Acad. Sci. St. Louis*, 7: 315-356 (p. 337).
- Robertson, C., 1901. Some new or little-known bees. *Canad. Ent.*, 33: 229-235 (p. 231).
- Robertson, C., 1902. Synopsis of Andrenidae. *Trans. Amer. Ent. Soc.*, 28: 187-194.
- Schmiedeknecht, O., 1885. *Apidae Europaeae*. Vol. 2, p. 886.
- Scopoli, J. A., 1770a. *Historico Naturalis*. Annus 4, 150 pp. (p. 44). Leipzig.
- Scopoli, J. A., 1770b. *Annus Hist. Nat.*, vol. 4, p. 8.
- Skorikov, A. S., 1914. K fauny shmelei yuzhnoj Chasti Primorskoj obrasti. *Rusk. ent. Obozr.*, 14: 394-407.
- Spinola, M., 1808. *Insectorum Liguria Species novae aut rariores, quas in Agro Ligustico nuper detexit, descripsit et Iconibus illustravit*. *Genuae*, Tom. 2, p. 7.
- Spinola, M., 1838. *Compte-rendu des Hyménoptères, recueillis par M. Fischer pendant son voyage en Égypte*. *Ann. Soc. Ent. France*, vol. 7, p. 538.

Thomson, C. G., 1872. Hymenoptera Scandinaviae. *Lund*, vol. 2, 285 pp., 1 pl.

Yasumatsu, K. & Y. Hirashima, 1956. Discoveries of the genera *Macropis* Klug and *Melitta* Kirby in Japan (Hymenoptera, Melittidae). *Kontyû*, 24(4): 247-255.

2. 和名(英名)に関する文献

a. 論文・単行本等

ハインリッチ, B. (井上民二監訳), 1991. 自然誌ライブラリー, マルハナバチの経済学. 付 日本産マルハナバチの分類・生態・分布. 293 pp. 2 図版. 文一総合出版, 東京.

平嶋義宏, 1983a. ニューギニア産花蜂 *Hylaeus* 属の分類学的研究の現状. *PULEX*, (68): 304-305.

平嶋義宏, 1983b. 学名ノート, 一学名に強くなるために. ちょうちょう, 6(12): 11-22.

平嶋義宏, 1984. 学名に用いられた古典語の昆虫名 (1). 越佐昆虫同好会会報, (57): 53-62.

平嶋義宏, 1989a. 学名の話. ii+380 pp. 九州大学出版会, 福岡.

ホイラー, W. M. (渋谷寿夫訳), 1986. 昆虫の社会生活. 306 pp. 紀伊國屋書店, 東京.

Ikudome, S., 1989. A revision of the family Colletidae of Japan (Hymenoptera, Apoidea). *Bull. Inst. Minami-kyûshû Reg. Sci., Kagoshima Women's Junior College*, (5): 43-314.

Ikudome, S., 1991. Two new subgenera of *Hylaeus* (Hymenoptera, Colletidae). *Jpn. J. Ent.*, 59(4): 789-792.

幾留秀一, 1992. 都市型自然公園の環境とハナバチ相, 一鹿児島市城山公園における調査結果— 附. 鹿児島県本土のハナバチ類改訂目録. 鹿児島女子短期大学紀要, (27): 99-135.

幾留秀一・山根正気, 1993. 有剣ハチ類同定入門 (3). 昆虫と自然, 28(4): 29-33.

井上民二・山根爽一 (編), 1993. 昆虫社会の進化, ハチの比較社会学. vii+532 pp. 博品社, 東京.

岩田久二雄, 1971. 本能の進化, 蜂の比較習性学的研究. iii+503 pp. 眞野書店, 大和市.

加藤 真 (川那部浩哉監修), 1993. 送粉者の出現とハナバチの進化. 33-78 pp. (シリーズ地球共生系 4, 花に引き寄せられる動物, 花と送粉者の共進化. 286 pp.) 平凡社, 東京.

川那部浩哉 (監修), 1992. シリーズ地球共生系 3, 昆虫を誘い寄せる戦略, 植物の繁殖と共生. 258 pp. 平凡社, 東京.

木元新作 (編), 1986. 日本の昆虫地理学, 変異性と種分化をめぐって. ix+185+14 pp. 東海大学出版会, 東京.

松本忠夫・東 正剛 (編), 1993. 社会性昆虫の進化生態学. vi+390 pp. 海游社, 東京.

松浦 誠, 1988. 社会性ハチの不思議な社会. 261 pp. どうぶつ社, 東京.

O'Toole, C. and A. Raw, 1991. Bees of the world. 192 pp. Blandford, London.

Popov, V. B. & K. Yasumatsu, 1935. Notes on the bee-genus *Pasites* Jurine (Hymenoptera, Nomadidae) with description of a new subspecies of *P. maculatus* Jurine from south Manchuria. *Mushi*, 8 (2): 97-104.

坂上昭一, 1970. ミツバチのたどったみち, 進化の比較社会学. 327+x pp. 思索社, 東京.

- 坂上昭一, 1975. 私のブラジルとそのハチたち. 328 pp. 思索社, 東京.
- 坂上昭一, 1992. ハチの家族と社会. iii+210 pp. 中公新書, 東京.
- 坂上昭一・福田弘巳・川野 博, 1974. 野生ハナバチ相調査の問題点と方法, 附. 札幌市藻岩山における調査結果. 生物教材, (9): 1-60.
- 坂上昭一・前田泰生, 1986. 動物, その適応戦略と社会 3, 独居から不平等へ, 一ツヤハナバチとその仲間の生活ー. viii+264 pp. 東海大学出版会, 東京.
- スィーレイ, T. D. (大谷 剛訳), 1989. 自然誌ライブラリー, ミツバチの生態学, 社会生活での適応とは何か. 256 pp. 文一総合出版, 東京.
- 塩川 信, 1981a. 小さな木工蜂の世界, 一ツヤハナバチの仲間とその生活 (1)ー. 遺伝, 35(10): 80-84.
- 塩川 信, 1981b. 小さな木工蜂の世界, 一ツヤハナバチの仲間とその生活 (2)ー. 遺伝, 35(11): 34-39.
- 楚南仁博, 1927. 臺灣産ミツバチ亞科に就て. 臺灣博物學會會報, 17(90): 221-227.
- 楚南仁博, 1929. 澎湖島の蜂類に就いて. 臺灣博物學會會報, 19(105): 533-540.
- 楚南仁博, 1931. 澎湖島の蜂類に就いて (2). 臺灣博物學會會報, 21(112): 6-8.
- 楚南仁博, 1932. 臺灣産クマバチ屬 (*Xylocopa*) に就きて. 臺灣博物學會會報, 22(120): 133-140.
- 常木勝次, 1973. 蜂類研究手引 (32), 日本産キマダラハナバチ属 (*Nomada*). 生物研究, 12(3-4): 135-149.
- 山田雅輝・坂上昭一, 1988. 津軽地方の非寄生性コハナバチ科. 青森県生物学会誌, 25: 10-21.
- 山根正気・幾留秀一, 1992a. 有剣ハチ類同定入門 (1). 昆虫と自然, 27(5): 22-27.
- 山根正気・幾留秀一, 1992b. 有剣ハチ類同定入門 (2). 昆虫と自然, 27(10): 21-25.
- 安松京三, 1933. 朝鮮産マルハナバチヤドリ属の一新變種に就て. 昆虫世界, 37(426): 5-7.
- 安松京三, 1937. 本邦産 *EUASPID* 属の蜂類に就いて. むし, 10(2): 141-148.
- Yasumatsu, K., 1938a. Hymenoptera collected in Tadao Kano's expeditions (1929, 1933, 1935 and 1936) to Botel Tobago Island. II. Braconidae, Tiphidae, Chrysididae, Trypoxylonidae, Andrenidae, Megachilidae, Ceratinidae, Nomadidae and Anthophoridae. *Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa*, 28(174): 72-76.
- 安松京三, 1938b. 南滿洲のハキリバチ屬. 動物學雜誌, 50(10): 421-426.
- Yasumatsu, K., 1939. Die Gattungen *Anthidium* und *Dianthidium* aus Japan, Korea und Formosa (Hym., Megachilidae). *Trans. Kansai Ent. Soc.*, 9(1): 1-8.
- Yasumatsu, K. & Y. Hirashima, 1969. Synopsis of the small carpenter bee genus *Ceratina* of Japan (Hymenoptera, Anthophoridae). *Kontyû*, 37(1): 61-70.
- b. 図鑑・分類表等
- 朝比奈正二郎・石原 保・安松京三 (監修), 1965. 原色昆虫大圖鑑, 第3巻. 76+358 pp. (303-312 pp.), 156 pls. 北隆館, 東京.

- 平嶋義宏 (監修), 1989b. 日本産昆虫総目録 I. xi+540 pp. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集, 福岡.
- 平嶋義宏・森本 桂・多田内 修, 1989. 昆虫分類学. vii+597 pp. 川島書店, 東京.
- 石井 悌・内田清之助・江崎悌三・川村多実二・木下周太・桑山 覚・素木得一・湯浅啓温 (編), 1956. 日本昆虫圖鑑, 改訂版. (1481-1494 pp.). 北隆館, 東京.
- 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇 (編), 1977. 全改訂新版原色日本昆虫図鑑 (下). xx+385 pp., 64 pls. 保育社, 大阪.
- 松村松年, 1908. 日本益蟲目録. (蜜蜂科, 139-148 pp.). 六盟館, 東京.
- 松村松年, 1912. 續日本千蟲圖解, 卷之四, (1-11 pp., 192-201 pp.). 警醒社書店, 東京.
- 松村松年, 1915. 昆虫分類學, 下卷. (蜜蜂科・擬蜜蜂科, 286-294 pp.). 警醒社書店, 東京.
- 松村松年, 1930. 増訂日本千蟲圖解, 第貳卷, 膜翅目の部. (42-55 pp., 166-178 pp.). 刀江書院, 東京.
- 松村松年, 1931. 日本昆虫大圖鑑. (3-10 pp.). 刀江書院, 東京.
- 松村松年, 1932. 日本通俗昆虫圖説, 第四卷, 膜翅目・双翅目・有翅目の部. (1-8 pp.). 春陽堂, 東京.
- 中根猛彦・青木淳一・石川良輔, 1966. 標準原色図鑑全集 2, 昆虫. xii+187 pp., 64 pls. 保育社, 大阪.
- 伊藤誠夫, 1991. 日本産マルハナバチの分類・生態・分布. (ハインリッチ, B. 参照)
- 素木得一, 1954. 昆虫の分類. 3+13+961 pp. (蜜蜂上科, 616-625 pp.). 北隆館, 東京.
- 多田内 修 (平嶋義宏監修), 1989. 日本産昆虫総目録 II. 680-692pp. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集, 福岡.
- 竹内吉蔵, 1955. 原色日本昆虫図鑑 (下), 190 pp., 68図版. 保育社, 大阪.
- 内田清之助 (代表), 1949. 學生版日本昆虫図鑑. 432+22+33 pp. 北隆館, 東京.
- 内田 亨 (監修), 1972. 谷津・内田 動物分類名辞典. (上科ミツバチ類, 641-643 pp.). 中山書店, 東京.
- 安松京三, 1972. 動物系統分類学, 第7巻下C, 節足動物ⅢC, 昆虫類 (下), 膜翅類. 267-365pp. 中山書店. 東京.

3. その他 (花蜂以外に関する参考文献)

- 浜田 康・井上 清, 1985. 日本産トンボ大図鑑, 第1巻, 図版編, 第2巻, 解説編. 371pp. 講談社, 東京.
- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之, 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I). xxii+277 pp., 64 pls. 保育社, 大阪.
- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之, 1983. 原色日本蝶類生態図鑑 (II). xxii+325 pp., 64 pls. 保育社, 大阪.
- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之, 1984a. 原色日本蝶類生態図鑑 (III). xxii+373 pp., 72 pls. 保育社, 大阪.

- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之,
1984b. 原色日本蝶類生態図鑑 (IV). xxii+373 pp., 64 pls. 保育社, 大阪.
- 森下正明・久保田政雄・小野山敬一・緒方一夫・寺山 守・近藤正樹・今井弘民・山内克典・増子恵一,
1988. 日本産アリ類和名一覧. iv+50 pp. 日本蟻類研究会編, 白梅学園短期大学自然研究室内,
東京.
- 森下正明・久保田政雄・小野山敬一・緒方一夫・寺山 守・近藤正樹・今井弘民, 1989. 日本産アリ類
の検索と解説 (I). v+42 pp. 日本蟻類研究会編, 白梅学園短期大学自然研究室内, 東京.
- 森下正明・久保田政雄・小野山敬一・緒方一夫・寺山 守・山内克典・園部力雄・近藤正樹・今井弘民,
1991. 日本産アリ類の検索と解説 (II). v+56 pp. 日本蟻類研究会編, 白梅学園短期大学自然研
究室内, 東京.
- 森下正明・久保田政雄・小野山敬一・緒方一夫・寺山 守・山内克典・園部力雄・山根正気・近藤正樹・
今井弘民, 1992. 日本産アリ類の検索と解説 (III). v+94 pp. 日本蟻類研究会編, 白梅学園短期
大学自然研究室内, 東京.
- 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三 (編), 1992. 日本産カミキリムシ検索図説. x+696 pp. 東海大学出版
会, 東京.
- ベリンズ, C. M.・ミドルトン, A. L. A. (編), 黒田長久 (監修), 1986. 動物大百科 7, 鳥類 I.
xx pp., 平凡社, 東京.

(1993年11月22日受理)